



# 日本で初開催 IGF京都2023に参加して

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)\*1

やまさき しん  
山崎 信



## 1. はじめに

インターネットガバナンスフォーラム (IGF) は、インターネットガバナンスに関して対話を行う国際連合 (国連) 主催のフォーラムである。インターネットガバナンスとは何かというと、内海義雄氏がITU事務総局長の任務にあった2003年にスイス・ジュネーブで開催された世界情報社会サミット (World Summit on the Information Society: WSIS)\*2第1回会合を受けて国連事務総長の下に設置されたインターネットガバナンス作業部会 (Working Group on Internet Governance: WGIG) で以下のとおり定義されている\*3。

インターネットガバナンスとは、政府、民間セクター、市民社会が、それぞれの役割において、インターネットの進化と利用を形作る共通の原則、規範、規則、意思決定手続き、プログラムを策定し、適用することである。

その後、2005年にチュニジア・チュニスで開催されたWSIS第2回会合の成果文書の一つであるチュニスアジェンダ\*4の72、73、77項でIGFの開催が規定されたため\*5、翌2006年から毎年IGFが開催されている。当初は5年間の年限で開催され、さらに5年間の年限延長が行われた。2015年には国連総会でWSISの10周年成果評価 (WSIS+10) が行われ、その結果、さらに10年年限が延長された。その期限である2025年には、WSISの20周年成果評価 (WSIS+20) が行われる予定となっている。チュニスアジェンダではまた、情報社会の鍵となる11のアクションライン (インフラ整備、人材育成、セキュリティ確保等) が示されており、これらの進捗報告などを行う国際会議としてWSISフォーラムが毎年ITUと他国連機関の共催により開催されている\*6。

## 2. 概要

第18回のIGFとなる、IGF 2023は2023年10月8日から12日にかけて京都で開催されることとなった。日本では初の開催である。通常IGFは11月末から12月初週で開催されるため、かなり前倒しの会期となり、ホストや登壇者などは様々な期限が前倒しとなって大変だったのではないかと想像する。

IGFはマルチステークホルダー (政府、民間部門、技術・学術コミュニティ、市民社会等) が対話を行う場として設立されているため、国連加盟国の国民であれば誰でも参加できることになっている。IGFは会場参加だけでなくオンラインでの参加も可能であり、さらにネットワーク帯域幅が十分でない途上国を中心に、24か国に35の遠隔会場 (リモートハブ) が設けられた\*7。



■ 図1. 岸田首相によるスピーチ。壇上には鈴木総務大臣、村井教授、ボグダン=マーティンITU事務総局長の姿も

\*1 JPNICとは <https://www.nic.ad.jp/ja/profile/>

\*2 <https://www.itu.int/net/wsiv/>

\*3 <http://www.wgig.org/docs/WGIGREPORT.pdf>

\*4 [https://www.itu.int/net/wsiv/documents/doc\\_multi.asp?lang=en&id=2267|0](https://www.itu.int/net/wsiv/documents/doc_multi.asp?lang=en&id=2267|0)

\*5 情報社会に関するチュニスアジェンダ (総務省による仮訳)

[http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/283520/www.soumu.go.jp/s-news/2005/pdf/051119\\_1\\_2.pdf](http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/283520/www.soumu.go.jp/s-news/2005/pdf/051119_1_2.pdf)

\*6 [https://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/ictseisaku/wsiv/index.html](https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/wsiv/index.html)

\*7 IGF 2023 Summary Report [https://www.intgovforum.org/en/filedepot\\_download/300/26575](https://www.intgovforum.org/en/filedepot_download/300/26575)

## 3. 参加・報道状況

IGF京都2023には、11,145名もの参加者が登録し、会場となった国立京都国際会館では国連加盟国178か国より6,279名が入館証を受領したとのことである。これは前年の会合のおよそ倍であった。オンラインでの参加者も3,000名を越え、いずれもIGFでの新記録となった\*8。日本で開催されたこともあり、参加者の地域別内訳ではアジア太平洋地域が最も多く6割弱となった。ステークホルダー別参加者内訳は、民間セクターが37%で最も多く、市民社会が24%、政府が16%、技術コミュニティが14%となった。オンライン中継は1万以上のユニーク視聴数となり、その半数強が日本国内からであった。

ITUからはドリーン・ボグダン=マーティン事務総局長が現地参加し、岸田文雄首相、鈴木淳司総務大臣及び村井純慶応義塾大学教授などと共にAIに関するハイレベルセッション及びジョン・ウィットティングデール英国データ・デジタルインフラ大臣、シグビョルン・ジェルスヴィークノルウェー地方自治・地域開発大臣、村井純氏及びICANN理事会議長トリプティ・シンハー氏などと共にWSIS+20に関するハイレベルセッションに登壇した。

日本国内のマスメディアからは、NHK、日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、京都新聞より報道されたとのことである。

## 4. テーマ

IGF京都2023では、全体テーマとして「The Internet We Want-Empowering All People (私たちの望むインターネット～あらゆる人を後押しするためのインターネット)」が定められ、さらに以下の8つのサブテーマが掲げられた。

1. 人工知能 (AI)・先端技術
2. インターネットの分断回避
3. サイバーセキュリティ、サイバー犯罪、オンラインの安全性
4. データガバナンス・トラスト
5. デジタルディバイド・包摂

6. グローバルデジタルガバナンス・協力
7. 人権及び自由
8. 持続可能性・環境

テーマは2023年1月末まで公募され\*9、3月に開催されたマルチステークホルダー諮問グループ (MAG) 会合によって選定された\*10。

## 5. 準備プロセス

前章で示したテーマの公募の次に、ワークショップを中心とする、セッションの公募が5月24日まで行われた\*11。その後6月\*12及び7月に開催されたMAG会合\*13にて、800以上あった提案セッションの中から選定する作業が行われた。その後、7月20日付でワークショップについては80セッションが選定された旨選定結果が公表された。

MAGは40名のメンバーからなり、IGF 2023の準備のため35回のリモート会議及び現地で会議を2回開催した。後者は一般の人も参加して意見を述べる機会を与えられた。

## 6. セッションの種類

IGFで開催されたセッションは多岐にわたる\*14。以下に主なものを示す。

- Workshops: インターネットガバナンス (IG) に関する特定のトピックや質疑に焦点を当て、そのトピックに関する専門知識や洞察を提供し、参加者間で議論を提起することを目的としたセッション。公募され、MAGによって選定される。最も数が多く一般的。
- Open Forums: 政府、国際機関、グローバルな組織が、インターネットガバナンス関連の問題を扱うために開催するセッション。
- Best Practice Forum sessions (BPF): インターネット政策の問題に取り組む経験を交換する通年活動で、IGFではその成果を発表している。IGF 2023では、サイバーセキュリティに関する活動の成果が発表・討議された。
- Dynamic Coalition sessions (DC): IGの問題や一連の問題に特化した、オープンなマルチステークホルダー・

\*8 <https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-participation-and-programme-statistics>

\*9 IGF 2023 Summary Report, p.52

\*10 IGF 2023 First Open Consultations and MAG Meeting, [https://www.intgovforum.org/en/filedepot\\_download/272/24572](https://www.intgovforum.org/en/filedepot_download/272/24572)

\*11 IGF 2023 Summary Report, p.52

\*12 IGF 2023 MAG Meeting IV, 28 June 2023, [https://intgovforum.org/en/filedepot\\_download/287/25991](https://intgovforum.org/en/filedepot_download/287/25991)

\*13 IGF 2023 Second Open Consultations and MAG Meeting, [https://intgovforum.org/en/filedepot\\_download/289/26022](https://intgovforum.org/en/filedepot_download/289/26022)

\*14 IGF2023へのお誘い, <https://blog.nic.ad.jp/2023/9279/>



グループによる通年活動・セッション。

- Policy Networks (PN) : 通年で政策策定作業を行うための取組みである。AIに関するもの、インターネットの断片化に関するものなどがある。
- National, Regional, Youth Collaborative Sessions (NRIs) : 各国・各地域のIGFが集まって行うセッション。
- Main Sessions : IGの広範かつ最新の重要問題を認識することを目的とする。可能な限り広い会場で、通訳(国連公用語6か国語+IGF 2023では日本語も入った)付きで通常開催される。
- Opening/Closing ceremonial sessions : 会議の最初と最後に行われるセレモニー。閉会式では参加者が質問できる「オープンマイク」コーナーも設けられた。
- High-Level Sessions : ハイレベル/閣僚級が登壇するセッション。
- Parliamentary Track : 各国の国会議員が集まって行うセッション。
- Newcomers Track/IGF Orientational session : 新規参加者が、プログラムの全体的な流れを理解し、自分自身の方向付けを支援するためのもの。

## 7. 会場

国立京都国際会館を会場として開催されたIGF京都では、最多で13セッションが同時開催されるという規模であった。会期中はセッション以外にも、バイ会談用や運営用途などで多くの部屋を使っていたようで、国際会議用に設計された会場の収容能力をフルに活用した印象を持った。会場内のあちこちにコーヒーなどを提供するステーションがあり、眠気覚ましのためには非常にありがたかった。昼食が無料で提供されたのも、時間を有効活用できたためありがたかった。セッション間の移動ではかなり歩いたようで、IGF京都会期中は毎日1万歩以上歩いた記録が筆者の活動量計スマホアプリに残っている。

## 8. 展示

会場に入場する際には、最初に空港にあるようなセキュ

リティチェックを通過した後、必ず展示ホールを通過してからでないと行けないようになっており、展示ブースは特に日本勢が力を入れたものが多かったためか、これまでのIGFよりも賑わっているように感じた。展示ブースは国連が募集したもの<sup>\*15</sup>、総務省が日本の企業・団体に声を掛けたもの<sup>\*16</sup>があり、合計76となった。筆者の印象に残った展示ブースは、「出版5社 マンガ海賊版対策会議」による、海賊版対策に関するもの<sup>\*17</sup>であった。展示会場には他に、茶道体験コーナー及び着物試着コーナーもあり、海外からの参加者から好評だったようである。



図2. ブースエリア入り口の案内看板

## 9. サイドイベント

会期中、様々な団体がサイドイベントを開催した。夕方から夜にかけてのパーティ形式のものが多かったように思うが、会期前日の前日10月7日には、京都情報大学院大学・京都コンピュータ学院が設置するスクール・オン・インターネット・ガバナンス (SIG) ジャパンにより、イベント「これからのインターネットを担う若者のためのSIG」が開催された。午前中は学生向けのワークショップが行われ、午後は国連IGF事務局長チェンゲタイ・マサンゴ氏による基調講演や、DC SIGメンバーのウォルフガング・クラインヴェヒター氏などが参加してパネルディスカッションが行われた。同大学・同校は教職員及び学生総出で同サイドイベント並びにIGF京都に参加していたようだ。

\*15 IGF Village 2023 <https://intgovforum.org/en/igf-village-2023>

\*16 西潟 暢央、IGF 2023報告～展示とAIのセッションを中心に、[https://japanigf.jp/download\\_file/view/163/505](https://japanigf.jp/download_file/view/163/505)

\*17 福井 健策、「マンガの世界受容とオンライン海賊版」セッション・ブース展開で見た到達点、[https://japanigf.jp/download\\_file/view/165/505](https://japanigf.jp/download_file/view/165/505)



■ 図3. 「これからのインターネットを担う若者のためのSIG」 パネルディスカッションで発言するクラインヴェヒター氏

## 10. 国内IGF・NRIについて

IGFは今回京都で開催されたように、年1回開催のグローバルなイベントだが、他に地域別・国別のIGFも開催されており、総称してNational Regional IGF Initiatives (NRIs)と呼ばれている。2023年時点で155の国・地域での取組みが存在する<sup>\*18</sup>。アジア太平洋地域であればAPrIGFが毎年会合を開催しており、今年2024年は台湾・台北で開催される予定である<sup>\*19</sup>。

日本国内でのIGF活動については、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会 (JAIPA) を中心とするIGF-Japan、JPNICを中心とする日本インターネットガバナンス会議 (IGCJ) が存在し、2016年より両者の統合を目指してJapan IGFとして活動及び将来形の検討を開始したが、正式な形での活動は開始できておらず、暫定的にIGF国内事前会合とIGF報告会を年次で開催してきた<sup>\*20</sup>。

2023年のIGFが日本で開催されることが決定され、それに向けて「IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム (以下、活発化チーム)」が2021年5月に設立された<sup>\*21</sup>。以来45回にわたり会合を開催し、毎年IGFの前後にそれぞれIGF国内事前会合とIGF報告会を開催している。活発化チームはIGFと同様、マルチステークホルダーからなるチームであり、行動規範の遵守などを満たせば誰でも参加することができる。IGF 2023の終了後は、恒久的な国内IGF体

制づくりに向けて準備を進めているところである。

### 10.1 IGF 2023国内事前会合

2023年9月7日・8日に「日本インターネットガバナンスフォーラム2023」として開催されたIGF国内事前会合では、IGF 2023向けに選定されたセッションのうち、国内またはそれに準ずる関係者である企画者または登壇者より、AI戦略などの、IGFで議論される予定の議題について日本語で話を聴く、また質問する機会が得られた。会合の資料・録画などはオンラインで閲覧／視聴可能である<sup>\*22</sup>。

### 10.2 IGF 2023報告会

2023年12月26日・27日に、以下のセッションからなるIGF 2023の報告会が開催された。こちらも同様にホストであった総務省、研究者などのIGF 2023のセッション企画者または登壇者による報告である。こちらも会合の資料・録画などをオンラインで閲覧／視聴可能である<sup>\*23</sup>。

## 11. おわりに

本稿では、IGF京都2023の一参加者としての筆者が感想を記したにすぎず、同フォーラムが成功裏に完了したのはひとえに日本政府 (総務省) をはじめとする関係者の奮闘に負うところが大きい。活発化チーム会合にて、毎回総務省の担当の方には日本政府における状況を報告いただいているが、IGF京都2023の準備は2023年度になってから始まったと記憶しており、かくも短期間の準備でこれだけの大成功を収めた裏には、担当の方々の多大なる努力があったと想像する。

今後のインターネットガバナンスに関連した動きとして、国連におけるグローバル・デジタル・コンパクトの策定、WSIS+20に向けた準備などがあり、IGF 2024は2024年12月15日から19日までサウジアラビア・リヤドで開催される予定である。ご興味を持たれた方は、ぜひ活発化チーム会合にご参加いただきたい。

\*18 <https://www.intgovforum.org/en/content/national-and-regional-igf-initiatives>

\*19 <https://ap.rigf.asia/news/2023/official-aprigf-2024-will-be-held-in-taipei-in-august/>

\*20 日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題 (第1版)  
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igf/20210719/material6.pdf>

\*21 <https://japanigf.jp/about/igf-2023igf>

\*22 <https://japanigf.jp/meetings/japan-internet-governance-forum-2023>

\*23 <https://japanigf.jp/meetings/igf-2023>